

## 平成 17 年度 事業報告書

(平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで)

### 【実施方針】

- 1 生涯学習関連機関との連携、ネットワークを構築することを通して、市民ニーズを踏まえた事業展開を図る。
- 2 市民参画を進め、市民による市民のための学習活動を支援する。
- 3 財団が有する専門性・柔軟性を活かしながら、効率的・効果的な事業運営を行う。

### 【事業報告】

#### 1 **学習機会提供事業**

(寄附行為第 4 条第 1 号に掲げる事業)

(目的) 施設機能を有効に活用することにより、市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、市民の多様化した学習ニーズに対応した機会を提供する。

(効果) 学習機会の質的・量的拡充が図られることにより、受講者層が拡大し、市民の生きがいづくり、社会参加が促進された。

(支出額) 7,463,719 円

##### (1) さっぽろ市民カレッジ (文化・教養系)

年 3 期 (平成 17 年 5～8 月、9～12 月、平成 18 年 1～3 月)、15 歳以上の市民 (高校生を除く) 及び市内勤務者を対象に、学習活動のきっかけづくりとして趣味・実用的内容の講座から、現代的課題 (社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要のある課題) の解決に関わる講座まで、幅広い分野で実施した。

なお、さっぽろ市民カレッジ (後掲受託事業分を含む。) では、取得単位数に基づき、「学士号」 (50 単位)、「修士号」 (80 単位)、「博士号」 (120 単位) を認定する評価

システムを実施しており、今年度は新たに 11 名が学位を取得した。

【実績】88 講座

受講者数 2,179 名／修了者数 1,919 名（総定員 2,944 名）

学位取得者：「学士号」7 名、「修士号」3 名、「博士号」1 名

学位取得者累計：「学士号」30 名、「修士号」12 名、「博士号」7 名

## （２）生涯学習センター施設機能活用事業

### ア 舞台操作技術講座

平成 17 年 6～7 月、市民を対象に、基礎レベルの舞台操作技術の習得及び施設利用の促進を目的とした講座を実施した（8 日間）。

【実績】受講者数 13 名（定員 30 名）

### イ ビデオ撮影技術を学ぼう！初級編

平成 18 年 3 月、ビデオ作品の企画立案、撮影から編集までの流れを体験する総合的な映像技術習得及び施設利用の促進を目的とした講習会を、市民を対象に開催した（1 日）。

【実績】受講者数 7 名（定員 20 名）

### ウ 音楽スタジオ技術講習会

平成 18 年 3 月、市民を対象に、音楽スタジオを使った CD 作成に必要な基礎的な知識習得及び施設利用の促進を目的とした講習会を実施した（6 日間）。

【実績】受講者数 9 名（定員 10 名）

### エ バックステージツアー

平成 18 年 2 月、親子を対象に、普段はあまり見ることのできない「ちえりあホール」の舞台裏の見学や舞台設備の操作を体験する機会を提供した（1 日間）。

【実績】参加者数 9 組 18 名（定員 18 組 36 名）

## （３）視聴覚学習機会提供事業

### ア ちえりあオペラシアター

年 5 回（平成 17 年 5 月、9 月、11 月、平成 18 年 1 月、3 月）、視聴覚センターが保有する音楽資料等の利用促進を図るために、視聴覚センターが所蔵している映像教材（LD、DVD）を活用した質の高い芸術の魅力を学ぶ機会として、ちえりあホールにおいてオペラシアターを開催した。

【実績】受講者数 688 名（総定員 2,180 名、各回定員 436 名）

#### イ 16ミリ映写機操作技術講習会

年6回（平成17年5月、7月、9月、11月、平成18年1月、3月）、15歳以上の市民（高校生を除く）及び市内勤務者を対象に、各種学習活動や地域活動において16ミリ映画を利用し学習効果を高めてもらうことを目的として、16ミリ映写機操作技術講習会を開催した。平成17年度は働いている方にも受講してもらえるよう平日の夜間にも開講した。（各回1日間）

【実績】受講者数45名（総定員120名、各回定員20名）

#### （4） 青少年科学館学習機会提供事業

##### ア 宇宙セミナー

宇宙科学に携わる研究者を迎え、市民を対象に講演会を開催した。平成17年度は、国立天文台長 海部宣男氏を迎え、「アインシュタインと宇宙」と題した講演を実施した。

【実績】116名（定員150名）

##### イ 星空の歩き方

青少年科学館の天体観測機器やプラネタリウムを活用しながら、宇宙・天文についての知識を深めるための講座（年2期各6回）を開催した。

【実績】1期33名

2期25名

##### ウ 地域子ども教室（ジュニアサイエンス広場）

全国科学系博物館等における地域子ども教室推進事業運営協議会の委託を受け、平成17年5月より、子どもの居場所づくりとして、小中学生を対象とした実験教室及び工作教室を実施した。

【実績】実施講座回数51回 参加者数1,299名

##### エ 4次元デジタル宇宙シアター

天文に対する興味・関心を喚起するため、平成17年11～12月と平成18年2～3月に、国立天文台が開発した4次元プログラムによって立体視できる宇宙空間の映像を、天文指導員の解説を交えて上映した。

【実績】実施講座回数39回 参加者数1,866名

**(5) 共催事業**

**ア ジュニア・ウィークエンドセミナー（共催：札幌市教育委員会）**

主に小学校高学年及び中学生を対象に、平成 14 年 4 月からの完全学校週 5 日制に併せて、週末の土曜日を親子で有意義に過ごすための学習機会として、施設機能を活かした講座を実施した。

**(7) 札幌市青少年科学館**

青少年科学館では、「ペットボトルから繊維を作ってみよう」、「電流と磁石」等の教室（8 回）と天体観望会（「手づくり望遠鏡で秋の星団をさがそう」1 回）を開催した。

【実績】参加者数 69 名（年 9 回実施）

**(6) 生涯学習センター・青少年科学館二施設連携事業**

**ア おとなと子供の科学教室**

生涯学習センターと青少年科学館が、これまで蓄積したノウハウを有効に活用し、大人と子供と一緒に楽しみながら学ぶ機会を提供するため、平成 17 年 12 月、平成 18 年 1 月の計 2 回、生涯学習センターを会場に開催した。

【実績】ものの動く様子を調べよう！ 受講者数 9 組 18 名（定員 10 組 20 名）

おもちゃ作りの科学！ 受講者数 10 組 20 名（定員 10 組 20 名）

**イ 流れ星を見よう'05**

平成 17 年 8 月に、（財）北海道森林整備公社と共催で道民の森を会場に、都会では得られない満天の星空の下で、流星の観測方法の解説を交えた天体観望会を行った。生涯学習センターが、さっぽろ市民カレッジの実施で培ってきたノウハウを活かして主に広報、参加者の募集等を担当し、青少年科学館が主に観望会の当日の運営を担当することで連携して効率的に事業を展開した。

【実績】参加者数 約 80 名（当日参加者も含む）

**ウ 空飛ぶ工作で競技大会！**

生涯学習センターの施設機能と、青少年科学館が有する科学に関する専門知識や子ども向けの科学事業実施のノウハウを取り入れて、競技形式を取り入れた工作大会を実施した。

【実績】参加者数 30 名（定員 50 名）

**エ 星空そぞろ歩き**

青少年科学館で年 3 回（平成 17 年 5～7 月、9～11 月、平成 18 年 1～3 月）実施されている「星空の歩き方」のうちの 2 回目を「星空そぞろ歩き」という名称に変え、青少年科学館と距離的に離れている西区近辺の市民を対象に、天文にまつわる雑学を交えなが

ら基本的な天文知識を解説し、学習する機会を提供するために、生涯学習センターを会場として実施した。

【実績】受講者数 18名（定員30名）

## 2 人材活用育成事業

（寄附行為第4条第2号に掲げる事業）

（目的） 市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、学習活動を通じた市民活動及びまちづくり活動を担うことのできる人材を育成する。

（効果） 学習活動を通して人材を育成し、その人材が活躍することにより、学習活動⇒学習成果の還元⇒さらなる学習活動、といった学習活動の質的・量的拡充が図られ、結果として、ボランティア等による市民活動及びまちづくり活動の活性化が図られた。

（支出額） 591,808円

### （1）生涯学習ボランティア育成事業

市民の生涯学習を支える「ちえりあ学習ボランティア」に対して、定例会（隔月1回）等を通じ、講座企画や組織運営について助言や指導を行い、ボランティアとしての資質向上に努めた。

そして、「さっぽろ市民カレッジ」における7講座をボランティア活動の実践の場として提供した。

また、札幌市内の博物館や美術館等で活動している生涯学習ボランティアのネットワークづくりと、活動の普及・啓発を目的として、「生涯学習ボランティアメッセ in SAPPOORO」を企画し、協働で実施した。

平成17年3月には、講座事業の企画・運営に関わる知識・技術を中心に、札幌における生涯学習活動を推進する際に必要な技術・心構えを学び、その成果をボランティア活動として生かすことを目的として、生涯学習ボランティア研修会を開催した。

【実績】ちえりあ学習ボランティア登録者数48名

生涯学習ボランティアメッセ in SAPPORO

参加団体 市内の生涯学習関連施設で活動している 10 団体

## (2) 学習指導者育成事業

生涯学習とまちづくりの視点に立ち、地域住民の学習活動及びまちづくりを支援する職員の資質向上と育成を図るための研修講座を実施した。平成 18 年 1 月に、区民センターや地区センター等の市民への生涯学習活動を支援する施設職員を対象とした、広報に関する研修講座を実施した。また、翌 2 月には各区役所地域振興課職員・まちづくりセンター職員を対象とした、コミュニティ・マップを活用したまちづくりに関する研修講座を実施した。

【実績】 効果的な広報の手法を学ぶ 参加者数 8 名 (定員 30 名)

コミュニティ・マップを利用したまちづくり 参加者数 11 名 (定員 30 名)

## (3) 天文指導員養成事業

将来、様々な職業・地域に分散した後の天文科学の普及に尽力してもらう青少年の人材を養成している。天文指導員は、科学館が企画実施している移動天文台や各種事業に参加することで、実体験をし、また研修等を通して自己能力の向上に努めている。

【実績】 登録者数 47 名 / 修了者数 14 名

# 3 **学習活動支援事業**

(寄附行為第 4 条第 3 号に掲げる事業)

(目的) 市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、情報収集・提供をはじめとして、市民の自主的活動や連携・交流活動を支援する。

(効果) 学習活動にこれまでかかわってこなかった市民に対しては、きっかけづくりを提供し、学習活動を行ってきた市民に対しては、これまでの学習成果を活かす場を提供することができ、生涯学習活動の底辺が広がった。

(支出額) 7,050,487 円

## (1) 生涯学習普及啓発事業

### ア ちえりあフェスティバル

平成 17 年 8 月、生涯学習のさらなる普及啓発を目的に、生涯学習総合センターオープン 5 周年記念事業としてこれまでに蓄積してきたノウハウを生かして、ちえりあフェスティバルを 5 日間に渡り開催した。

#### (7) 生涯学習センター主催行事

EPO さんと宮本雅彦さん出演による音楽ライブや演劇、さっぽろ市民カレッジ体験講座、ロビーコンサート、サークル体験教室のほか、サークル発表会を実施した。また、青少年科学館連携事業の科学工作イベントを実施した。

#### (4) 青少年センター主催行事

青年スタッフが企画・運営を行い、屋外でステージ発表や屋台などのイベントを実施した。

#### (ウ) 教育センター主催行事

紙コップを使った工作と身近なものを使った実験など親子を対象にしたイベントを実施した。

#### (エ) リサイクルプラザ主催行事

おもちゃ病院やごみ減量をテーマに、リサイクル傘販売、廃食油の石けん作りなどを実施した。

#### (オ) 各施設連携行事

各施設の特徴を活かしながら複合施設としての一体感を出すため、各施設が連携して食器洗浄車の実演やコミュニティ FM 4 局による公開生放送を開催した。

【実績】 5 日間延べ参加者数 16,395 名

〔内訳：生涯学習センター関係 8,164 名／青少年センター関係 6,989 名／教育センター関係 34 名／リサイクルプラザ関係 1,208 名〕

## (2) ボランティア活動・サークル活動促進事業

市民に継続した学習活動の場を提供するため、サークル紹介コーナーの設置や「ちえりあサークルガイド」の冊子を自主制作し、生涯学習センターにおけるボランティア及びサークル活動の支援をした。

【実績】 800 部

### (3) 共催事業

#### ア 科学技術週間事業「科学映画会」(共催：日本科学技術振興事業団)

平成 17 年 5 月に、科学技術週間協賛事業として科学技術映像祭の入選作品を上映した。

【実績】入場者数 337 名

#### イ 青少年のための科学の祭典札幌大会(共催：日本科学技術振興財団、北海道科学の祭典実行委員会、科学技術館、北海道新聞社)

平成 17 年 9 月に、中高生を中心とした出店形式による実験や工作を行った。

【実績】参加者数 2,611 名

#### ウ 札幌市中学校科学クラブ研究発表会(共催：札幌市中学校文化連盟)

平成 17 年 11 月に、市内中学校の科学クラブを対象に、研究活動発表会を開催した。

【実績】参加校数 14 校 93 名

#### エ 札幌市中学校校内放送コンテスト(共催：札幌市中学校放送教育研究会)

平成 17 年 7 月に、札幌市内の中学校の校内放送局員が制作した放送番組と各放送局で活動するアナウンサーの放送コンテストを開催した。

【実績】参加校数：10 校 43 名

#### オ 札幌市中学校校内放送技術講習会(共催：札幌市中学校放送教育研究会)

平成 17 年 8 月と 18 年 1 月、札幌市内にある中学校の校内放送局員の技術向上を図るために開催した。

【実績】17 年 8 月 参加校数：13 校 55 名 18 年 1 月 10 校 30 名

#### カ 日本映画名作祭 2005(共催：札幌映画サークル)

東京国立近代美術館フィルムセンターから、同センターが保有する貴重な日本映画フィルムの提供を受け、現在では劇場公開されることの少ない日本映画の名作 4 作品(「夜の河」「伊豆の踊り子」「五番町夕霧楼」「五<sup>こべん</sup>瓣の椿」)を平成 17 年 9 月 28 日～30 日の 3 日間に渡り、上映した。札幌映画サークルと協力・連携し、両者による実行委員会形式で実施した。

【実績】入場者数 692 名

### (4) 生涯学習情報誌の発行

生涯学習関連施設及び団体が札幌市内及び近郊で実施している講座・講習会等の学習機会の情報を一冊にまとめ、年 3 回(4 月、8 月、12 月)発行した。

【実績】各回 8,000 部(年間 24,000 部)

#### (5) 学習相談事業

日常の学習活動で生じる問題について、専属の学習相談員を配置し、来館・電話・ホームページによる相談に幅広く対応した。

【実績】相談件数 1,216 件

(内訳：面談 823 件、電話 372 件、メール・その他 21 件)

#### (6) 視聴覚教材利用促進事業

年 6 回（平成 17 年 4 月、6 月、8 月、11 月、平成 18 年 1 月、2 月）、視聴覚センター所有の 16 ミリフィルムを活用した映画試写会及び親子映画会を開催した。

【実績】入場者数 1,343 名（総定員 2,616 名、各回定員 436 名）

## 4 調査研究事業

(寄附行為第 4 条第 4 号に掲げる事業)

(目的) 市民の学習ニーズに対応した生涯学習事業のあり方について調査研究する。

(効果) 生涯学習センターでは市民の学習ニーズを基に、新しい事業形態について試行し調査したことで、事業運営のノウハウを高めた。

また、青少年科学館では財団が有する専門性を駆使しながら行った調査研究を、財団実施事業の内容改善に活かすことにより、事業参加者の拡大につながった。

(支出額) 225,045 円

#### (1) 生涯学習センター

##### ア 生涯学習に係る調査研究

講演会や演奏会、展示などを集約し同時に行う総合的な事業形態のあり方について調査し、それが実際に市民の学習ニーズに適合するか研究した。

#### (7) 生涯学習「きっかけ」情報提供事業の実施

市民の生涯学習のきっかけとなる事業として、「古き良き伝統～再生と音とのコラボレーション」と題して、講演と演奏会を12月にちえりあホールにて実施した。

また、約1ヶ月間、1Fロビーでの古材の展示や、テーマに基づいた映像作品を制作し、12面マルチビジョン活用した上映会などを実施した。

【実績】参加者数 353名

## (2) 青少年科学館

### ア 科学技術に関する資料の収集

解説の基礎資料、展示物及び展示の改良に資するため、市販の出版物や他施設における発行物等を収集した。

### イ 天文資料の収集

インターネット画像、市販の出版物及び他施設における発行物の収集に加え、科学館天文台、札幌市天文台及び移動天文車を活用して天体写真を撮影した。

## 5 受託事業

(寄附行為第4条第5号に掲げる事業)

### (1) さっぽろ市民カレッジ（市民活動系、産業・ビジネス系）

札幌市からの委託により、年3期（平成17年5～8月、9～12月、平成18年1～3月）、15歳以上の市民（高校生を除く）及び市内勤務者を対象に、リカレント教育を中心とした段階的・継続的な学習機会の提供を目的とする講座を開催した。

また、札幌市立高等専門学校との連携を図りながら、札幌の住宅地の環境からまちづくりを考える講座も実施した。

【実績】30講座

受講者数447名／修了者数367名（総定員675名）

(支出額) 6,986,627円

### (2) ジュニア・ウィークエンドセミナー

札幌市からの委託により主に小学校高学年及び中学生を対象に、完全学校週5日制に併せて、週末の土曜日を親子で有意義に過ごすための学習機会として、施設機能を活かした講座を実施した。

### (7) 札幌市生涯学習センター

生涯学習センターでは、野外実習や演劇体験プログラムなど体験活動を通して学ぶことの本来の面白さを発見する「Aコース」とともに、特定分野の基礎を学ぶ「親子クッキング教室」、「親子パソコン教室」、を各10回、開催した。

#### 【実績】

Aコース	受講者数 133名（総定員 270名、定員 20及び30名）	
親子クッキング教室	受講者数 101組（総定員 120組 240名、各回定員	12
	組 24名）	
親子パソコン教室	受講者数 74組（総定員 150組 300名、各回定員 15組	
	30名）	

（支出額） 1,090,507円

## 6 生涯学習関連施設の管理運営（受託事業）

（寄附行為第4条第6号に掲げる事業）

### (1) 札幌市青少年科学館の管理運営

札幌市からの委託により、科学技術に関する学習機会や体験機会の提供を目的として、札幌市青少年科学館の管理運営を行った。

（展示事業の管理運営、プラネタリウムの管理運営、企画特別展の開催、常設イベントや体験イベントの開催）

（支出額） 433,152,126円

#### ア 展示事業の運営

##### (7) 常設展示

展示物を「見て」、「触れて」、現象を「考えてみる」ことができるよう、〈宇宙〉〈北方圏〉〈原理・応用〉〈マルチメディア〉のテーマを主とし、より強い印象が残り、理解しやすい展示物の整備を行った。

##### (イ) 実演展示・実験等

来館者が科学や科学技術について理解を深められるよう、サイエンスショーやテレビスタジオなど、解説を交えながらの参加形式による実演等を行った。

また、来館者が多い日曜・祝日に、科学に親しみやすい実験や工作会を行った。

サイエンスショー	<p>化学・物理系実験を解説員が実演し、科学の不思議さや楽しさを伝え、科学への関心を高めるため、延べ725回実施した。</p> <p>【実績】観覧者数 20,314名          題材：4月～6月「しゃぼん玉パワー～表面張力の秘密～」          7月～10月「楽しい科学反応」          11月～2月「燃えてビックリ!!～アルコールロケット発進～」          3月 「風船の不思議～われて大きな音がするのは?～」</p>
ちよびっとサイエンス	<p>科学への関心を高めるため、空気砲や偏向板を利用した簡単な実験等を行い、解説員とのコミュニケーションを通して、科学の楽しさを伝えた。</p>
<p>実演展示          (テレビスタジオ、人工降雪装置、低温展示室)</p>	<p>装置の動きや模型展示の仕組みでは伝わりにくい科学現象を、実演や解説により紹介した。</p>
日曜実験室	<p>実験を体験することによって、子供たちの「科学する心」を養うため、延べ67回実施した。</p> <p>【実績】参加者数 861名          テーマ：4月 「明るく灯そう、豆電球」          5月～8月 「水中エレベータの秘密」          9月～12月 「おもしろ静電気」          1月～3月 「塩水が電気をつくる」</p>
日曜工作室	<p>工作を通して科学的動作原理、材料の利用、道具の正しい使い方等の習得と興味を喚起するため、述べ56回実施した。</p> <p>【実績】2,032名          4月～7月上旬「ぱたぱたじどうしゃ」          「クルクルピエロ」          7月中旬～11月「フーフーかざぐるま」          「ペットカーシリーズ6枚羽ペットカー」          12月～3月 「ビー玉パズル」          「コロコロコースター」</p>
気象講座	<p>気象学の啓発を図るため、平成17年7月に日本気象学会北海道支部との共催により、身近な気象現象や話題性のあるテーマについて、専門の講師が最新の研究・情報をわかりやすく紹介した。</p> <p>【実績】受講者数 24名          テーマ：①北太平洋中層水～オホーツクで生まれる北太平洋で一番重い水～          ②最新の民間天気予報事情～北海道は天気予報の激戦地～          ③生態系と微生物～地球環境を支えるミクロの生物圏～          ④地震はくりかえす～同じ場所で同じ大きさの地震が起きる～</p>

親子科学教室	平成 17 年 11 月に、親子のコミュニケーションとマルチメディアや実験を通して科学への興味・創造力の向上を目的とした教室を開催した。 【実績】17 組
移動科学館	教育普及活動の積極的な展開を図るため、来館が困難な学校や養護施設などで科学教室を開催した。 【実績】5 回 242 名

## イ 天文事業の運営

身近なところで天文に親しむ「場」を設定し、天文に関する基礎知識から最新の情報までを提供するとともに、市民の天文に対する興味・関心を高めるため、プラネタリウムや移動天文車等を活用しながら各種天文事業を実施した。

### (7) プラネタリウム投影事業

一般投影	天候や時間に関係なく星空を投影できるプラネタリウムを使って、星や星座を知る機会、天文学の初歩から最新情報までを学習する機会を提供した。 【実績】観覧者数 52,873 名／投影回数 1,232 回
学習投影	小中学校を対象に、理科授業の一環として実施した。学校の授業では理解することの難しい天体の動き、街中では見ることのできない満天の星空を疑似体験することで、天文への興味関心を喚起した。 【実績】観覧者数 市内小学校 181 校／14,632 名 市内中学校 3 校／238 名 投影回数 102 回
夜間特別投影	季節あるいは新しい天文的話題をテーマとし、通常よりも掘り下げた内容の投影を行うとともに、通常の投影時間では鑑賞できない人びとへの機会の提供のため 9 回実施した。 【実績】観覧者数 1,397 名／投影回数 9 回

### (4) 天体観望事業

天体観望会	プラネタリウム夜間特別投影に併せて、科学館駐車場において一般市民を対象に移動天文車を使った観望会を行った。 【実績】来場者数 395 名／実施回数 5 回
移動天文台	天文台を利用する機会の少ない市民に、自分達の住む地域で気軽に天体観望する機会を提供するため、移動天文車により各地へ出向き、天体観望を行った。 【実績】参加者数 2,028 名／実施回数 18 回
札幌市天文台夜間公開	多くの市民に天体観望の機会を提供し、天文に対する興味・関心を高め、科学への夢を育むため、夜間の公開を行った。 【実績】利用者数 745 名／実施回数 19 回

西岡天文台夜間公開	市民の天文に対する興味・関心を高めるため、一般公開することを条件に市民から寄付された西岡天文台において夜間公開を予定していたが、天文台スリット部破損のため、1度も実施することができなかった。
さっぽろ星まつり	滝野すずらん丘陵公園との共催で公園利用事業の一つとして天体観望事業を実施し、市民の天文に対する興味・関心を深めるため、同公園において平成 17 年 8 月に 2 日間実施した。 【実績】入場者数 1,000 名

(ウ) 「宇宙の日」関連事業

作文・絵画コンテスト	「宇宙の日（9月12日）」を記念して、日本宇宙フォーラムとの共催により市内小中学生から宇宙に関する作文・絵画を募集し、展示・表彰した。 【応募数】作文 小学生 24 名 絵画 小学生 34 名
------------	--

(I) 教室・講座

天文教室	天体に接する機会の少ない市民に、天文の基礎的な学習機会と実際の星空を観望する機会を提供し、天文科学に対する興味・関心を高めるため、7回実施した。 ①中高齢者のための天文教室（2日で1コース） 【実績】参加者数 1回目（平成17年6月）37名 2回目（平成17年10月）23名 ②親と子の天体教室（1日で1コース） 「手作り天文望遠鏡で星を見よう」 【実績】参加者数 総計 192名 1回目 36組 2回目 23組 3回目 23組 （各回とも平成17年8月実施）
------	---

(オ) 天文相談コーナー（星のへや）

代表的な天体望遠鏡や参考図書などを常備した天文相談コーナーを設け、天文に興味を持った人の初歩的な疑問に答えた。

(カ) 共催事業

道民の森観望会

平成 17 年 5 月・10 月に当別町にある道民の森と共催で、札幌市内では見られない星雲などの淡い天体を見る機会を提供した。

【実績】参加者数 1回目 85名／2回目 70名

## ウ 特別企画の開催

小中学校の夏休みや冬休みの期間に合わせて、特別企画を開催した。

夏の特別企画「集まれ！未来の昆虫博士 驚異の昆虫世界」	
趣旨及び概要	普段見る機会の少ない昆虫の構造や、巣の作り方等に見られるような技術を紹介し、昆虫の行動パターンを科学的に体験、体感することにより、現在の私たちの使用している道具や技術との関連性を見出し、昆虫に対して興味、関心を高められるようにすることを目的として開催した。
実施期間	7月30日～8月21日（23日間）
展示構成	プロローグ（アノマロカリスの可動生体模型・節足動物化石・昆虫標本等）、昆虫の構造（バッタ・クワガタ等の構造を模型で紹介）、美しき蝶の世界（パネル・立体模型・標本等）等
入館者数	65,531名
冬の特別企画「それいけ！科学探偵団～君はこの謎をとけるか？～」	
趣旨及び概要	科学に親しんでもらうには「実験」が一番効果的であるが、実験だけを目的とすると、敬遠される傾向があるため、一連のストーリーの中に科学的実験を組みこみ、参加者が、自然に科学の楽しさを体験してもらうことを目的として開催した。
実施期間	1月5日～1月15日（11日間）
展示構成	鏡の通路、電子パズル、暗闇迷路、センサー網を突破せよ！、イライラ棒、錯覚の部屋、イリュージョン、プレゼントコーナー、指紋判定をしてみよう、繊維判定をしてみよう等
入館者数	23,379名
春の特別企画「科学がぎっしり！電気の世界」	
趣旨及び概要	「電気」は、生活のいたるところに関わっているものであるが、「電気」の世界で起こる科学的な現象について、改めて考える機会は非常に少ないため、展示物をとおして「電気」の科学現象の仕組みや性質等の理解を促し、来館者の科学に対する興味を喚起することを目的として開催した。
実施期間	3月25日～4月2日（9日間）
展示構成	身近なものでできる電池、太陽電池、磁石がつくる力を見てみよう、磁石と力比べ、発電機の仕組み、電気の値段を調べてみよう、分解コーナー、ロボットコーナー、サイエンスショーコーナー等
入館者数	20,320名

## (2) 札幌市生涯学習センターの管理運営

札幌市からの委託により、市民の生涯学習に関わる活動を支援することを目的として、札幌市生涯学習センターの管理運営を行った。

(支出額) 462,091,200 円

### ア 貸室事業

市民の幅広い学習活動を支援するため、ちえりあホールをはじめとした各種研修室を、それぞれの活動の場として提供した。

【実績】貸室利用者数 353,911 名／利用率 75.3%

### イ メディアプラザ運営事業

講座・サークル等の学習機会情報の提供、図書の閲覧・貸出、音楽・映像資料の視聴、インターネットによる情報検索サービスなど、市民の学習活動を支援するメディアプラザの運営を行った。

【実績】メディアプラザ利用者数 55,099 名

## (3) 視聴覚センターの管理運営

札幌市からの委託により、視聴覚教育の推進、市民団体や学校等への学習支援を行うことを目的とした視聴覚センターの管理運営を行った。

(支出額) 19,996,017 円

### ア 学習教材開発事業

提供教材の充実を図るため、学校教育及び社会教育の関係者等に委託して、市販教材にはない、地域に密着した特色ある教材を制作した。

【実績】新規製作教材数 13 本（ビデオ）

### イ 視聴覚教材貸出事業

市内の小中学校をはじめ、幼稚園や児童会館、町内会やサークル等の団体に対して、学習活動に役立つ視聴覚教材（16 ミリフィルム、ビデオ等）を貸し出すとともに、新規に購入するなどして教材の充実を図った。

【実績】教材貸出数 9,753 本

購入教材数 25 本（うち 16 ミリフィルム 0 本）

現有教材数 10,991 本（うち 16 ミリフィルム 3,098 本）

## 7 **収益事業**

(寄附行為第4条第7号に掲げる事業)

(収入額) 17,095,966 円 (支出額) 12,317,337 円

### (1) **売店・自動販売機事業(札幌市青少年科学館)**

札幌市青少年科学館の管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的とした売店・自動販売機事業を行った。

### (2) **レストラン・自動販売機事業(札幌市生涯学習センター)**

札幌市生涯学習センターの管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的としたレストラン・自動販売機事業を行った。